

無許諾音楽アプリに関する実態について

－調査報告書－

2020年9月

無許諾音楽アプリ実態調査委員会

目次

はじめに

第1章 無許諾音楽アプリの利用状況について

第2章 無許諾音楽アプリによる影響について

おわりに

参考

はじめに

委員会概要

「無許諾音楽アプリ実態調査委員会（座長：青山学院大学 内山隆教授）」は、無許諾音楽アプリの利用の実態を明らかにするために、調査内容とその方法について検討を行い、調査を実施し、結果を検証するために設置されたものである。本委員会は学識経験者および官公庁などが、委員またはオブザーバーとして参加することで組成され、調査の透明性・公平性が確保されたものである。この度、本調査結果及び委員会における議論の内容を基に報告書としてとりまとめた。

本委員会は、2020年1月から同年7月までの間に3回開催された。委員は、以下の通りである。

【委員】 ※敬称略

内山 隆（青山学院大学 教授）＜座長＞

生貝直人（東洋大学 准教授）

太下義之（文化政策研究者）

城山康文（アンダーソン・毛利・友常法律事務所 弁護士）

山口真一

（国際大学グローバルコミュニケーションセンター 准教授）

吉田 奨

（一般社団法人セーフアーインターネット協会 専務理事）

【オブザーバー】

内閣府知的財産戦略推進事務局

総務省

文化庁

経済産業省

【アンケート調査委託会社】

株式会社三菱総合研究所

【事務局】

一般社団法人日本音楽著作権協会

一般社団法人日本音楽事業者協会

一般社団法人日本音楽制作者連盟

一般社団法人日本音楽出版社協会

一般社団法人

コンサート・プロモーターズ協会

一般社団法人日本レコード協会

調査概要

【調査目的】

「MusicFM」など権利者に無断で公開された音源を配信する無許諾音楽アプリによる被害の実態を把握することを目的として、無許諾音楽アプリの利用者数や利用状況などユーザーの動向に着目した調査を実施し、無許諾音楽アプリが音楽業界に与える影響を考察し、被害額の算定に資するデータを算出する。

調査の枠組み	以下2つの調査を実施した。 ■スクリーニング調査 一般生活者を対象とし、音楽聴取の利用実態及び正規ストリーミングサービスの利用実態を把握する。 ■本調査 スクリーニング調査における無許諾音楽アプリ利用層（MusicFMあるいはMusicBoxを過去1年間に「最も利用した」アプリと回答した層）を対象とし、その利用実態を詳細に把握する。
調査手法	Webアンケート調査
調査時期	■スクリーニング調査：2020年3月16日～3月20日 ■本調査：2020年3月23日～30日
調査対象	全国12～69歳の男女（※小学生は含まない）
有効回答数	■スクリーニング調査：10,000サンプル ※国勢調査に基づき性・年代の人口構成比に従って割付・回収を実施した ■本調査：1,034サンプル ※スクリーニング調査においてMusicFM/MusicBoxを過去一年以内に利用していると回答した層（Q5「1年間で最も利用している無料音楽アプリ・サービス」としていずれかを選択した層）を、性・年代別当該アプリ利用者の出現率（両アプリを合算した出現率）に従って回収。 ※スクリーニング調査のサンプルでは不足する性・年代については、追加でスクリーニング調査を実施して補填を行った。

【アンケート分析における定義事項】

スクリーニング調査の分析では、アンケートモニターの属性情報に基づいて以下の通り学生区分を設定。

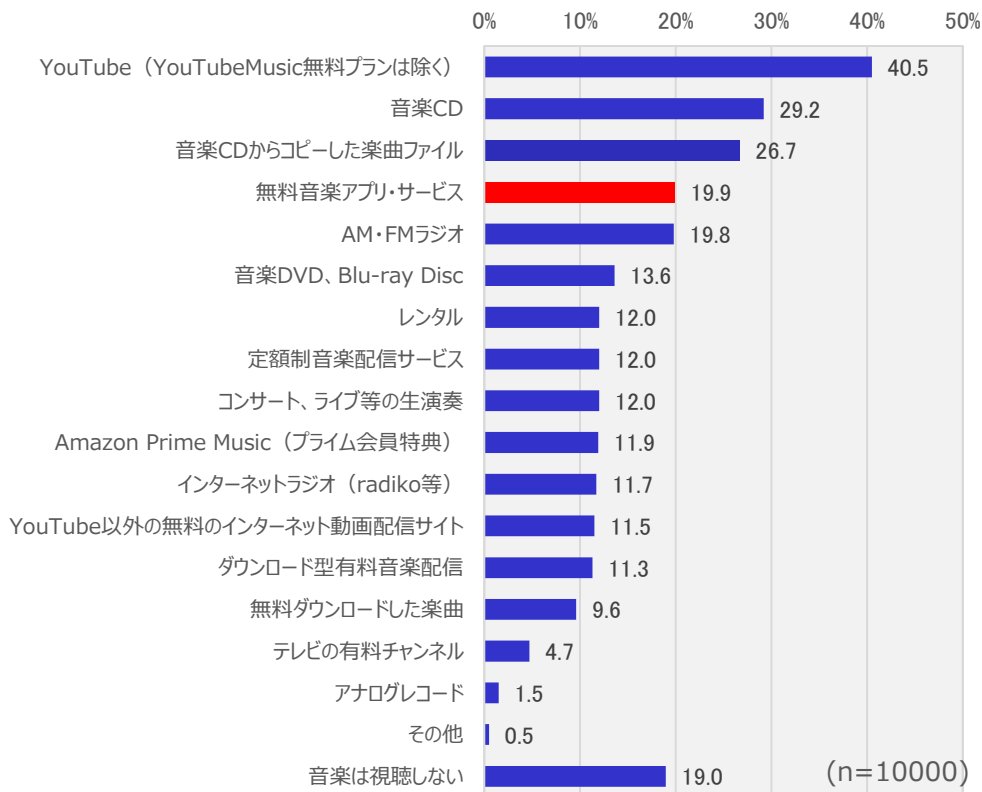
- ・中学生・高校生：属性情報「中学生」あるいは「高校生・高専生」のいずれかに該当
- ・学生：属性情報「専門学校生」「短大生」「大学生」「大学院生」のいずれかに該当

第1章 無許諾音楽アプリの利用状況について

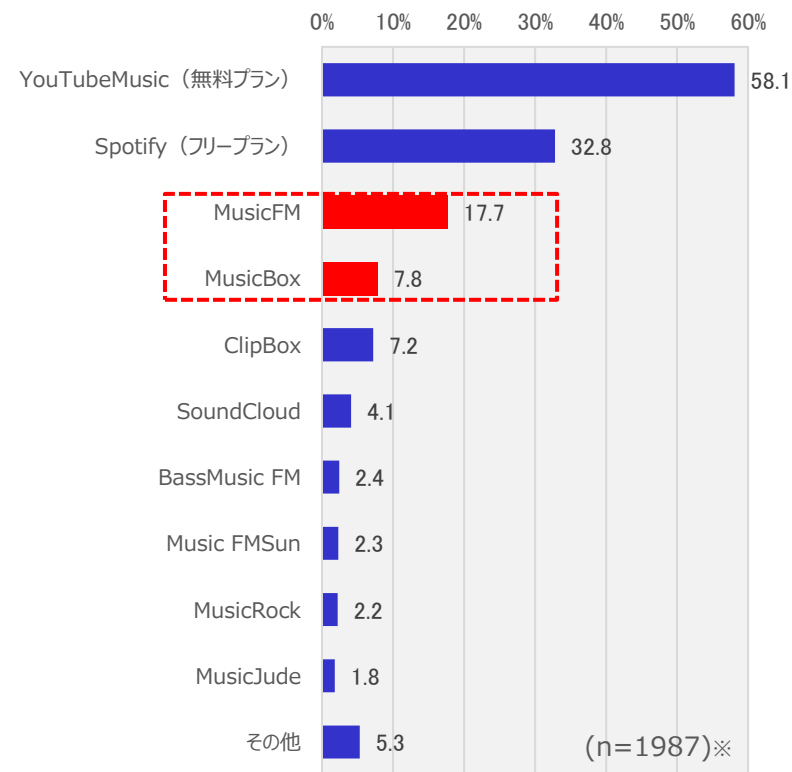
① 音楽の聴取視聴方法（利用している手段）

- 利用している音楽聴取方法としては、YouTubeが40.5%と多く、音楽CD、音楽CDからコピーしたファイル、無料音楽アプリ・サービスが続いている。
- 利用している無料音楽アプリ・サービスとしては、無許諾アプリの代表格であるMusicFMが17.7%、MusicBoxが7.8%という結果である。

◆ 音楽の視聴方法（12歳～69歳）



◆ 無料音楽アプリ・サービス（12歳～69歳）



※スクリーニング調査において「無料音楽アプリ・サービス」を選択したユーザー数

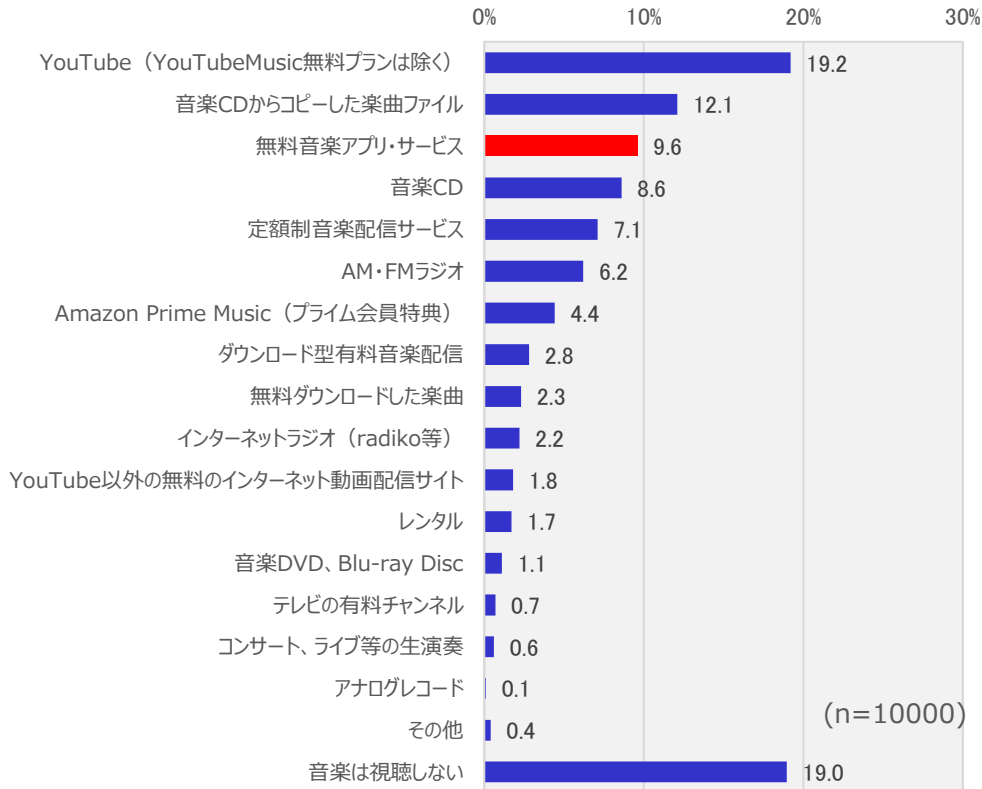
[Q3] 以下の音楽の視聴方法のうち、あなたが一年以内に利用しているものをすべて選び、そのうち最もよく利用しているものを一つだけ選んでください。
なお、一年以内に自分からすすんで音楽を視聴していない場合は、「18.音楽は視聴しない」をお選びください。【一年以内に利用しているもの（いくつでも）】【MA】

[Q5] 無料音楽アプリ・サービスを利用している方にお伺いします。
この1年間において、あなたが利用している無料音楽アプリ・サービスをすべて選び、そのうち最もよく利用しているものを1つだけ選んでください。【一年以内に利用しているもの（いくつでも）】【MA】

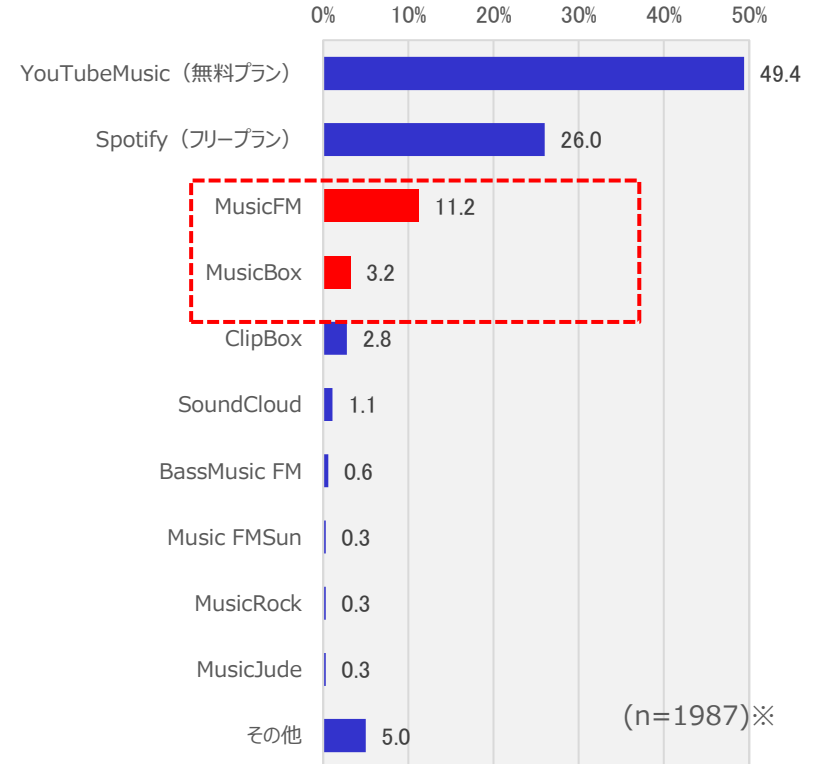
② 音楽の聴取視聴方法（最も利用している手段）

- 全体的にYouTubeを最も利用している人が19.2%と多い。
- 無料音楽アプリ・サービスでは、YouTube Music(無料プラン)を最もよく利用する人が49.4%と最も多く、MusicFMは11.2%、MusicBox3.2%という利用状況。

◆音楽の視聴方法（12歳～69歳）



◆無料音楽アプリ・サービス（12歳～69歳）



※スクリーニング調査において「無料音楽アプリ・サービス」を選択したユーザー数

[Q3] 以下の音楽の視聴方法のうち、あなたが一年以内に利用しているものをすべて選び、そのうち最もよく利用しているものを一つだけ選んでください。

なお、一年以内に自分からすすんで音楽を視聴していない場合は、「18. 音楽は視聴しない」をお選びください。

【一年以内に利用しているもの (いくつでも) 】【SA】

[Q5] 無料音楽アプリ・サービスを利用している方にお伺いします。

この1年間において、あなたが利用している無料音楽アプリ・サービスをすべて選び、そのうち最もよく利用しているものを1つだけ選んでください。

【一年以内に利用しているもの (いくつでも) 】【SA】

③ 無許諾音楽アプリの利用状況（利用率、利用者数）

- 無許諾音楽アプリの利用人数は、一般消費者を対象としたスクリーニング調査を基に、性年代別（男性/女性・10代/20代/30代以上）での利用率（MusicFMとMusicBoxを最も利用すると回答した割合）を導出し、各性年代別の人口（平成27年国勢調査人口を参照）と総務省公表の平成30年度通信利用動向調査のインターネット利用率を乗じることで導出した。
- なお、学生の利用者数は、学生の割合を12才から18才までは100%、19才から22才までは82.8%(*1)、23才以降は0%とすることで推定している。
- 全国の無許諾音楽アプリの利用者は約246万人、国内人口の約2%程度と推計された。

*1 文科省「学校基本調査－令和元年度結果」より、高等教育機関（大学・短期大学入学者、高等専門学校4年在学者及び専門学校入学者）進学率【H31】を参照。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591_00001.htm

◆無許諾音楽アプリ利用率および利用者数（12歳～69歳）

性・年代	無許諾音楽アプリ利用率 *MusicFMとMusicBoxを最も利用すると回答した割合	平成30年度通信利用動向調査（総務省）	無許諾音楽アプリ利用者数（人）		
			合計	学生	非学生
男性/12-19才	9.4%	95.7%	436,904	427,416	9,488
男性/20-29才	4.1%	98.0%	253,332	60,988	192,345
男性/30才以上	0.7%	97.6%他	213,601	0	213,601
女性/12-19才	11.3%	97.5%	507,158	496,112	11,045
女性/20-29才	12.3%	99.3%	743,080	177,600	565,480
女性/30才以上	1.0%	98.2%他	310,595	0	310,595
合計			2,464,670	1,162,116	1,302,554

※各数値は小数点第1位を四捨五入しているため、必ずしも合計値と一致しない

注) ここでいう「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

[SC5]無料音楽アプリ・サービスを利用している方にお伺いします。
 この1年間において、あなたが利用している無料音楽アプリ・サービスをすべて選び、そのうち最もよく利用しているものを1つだけ選んでください。

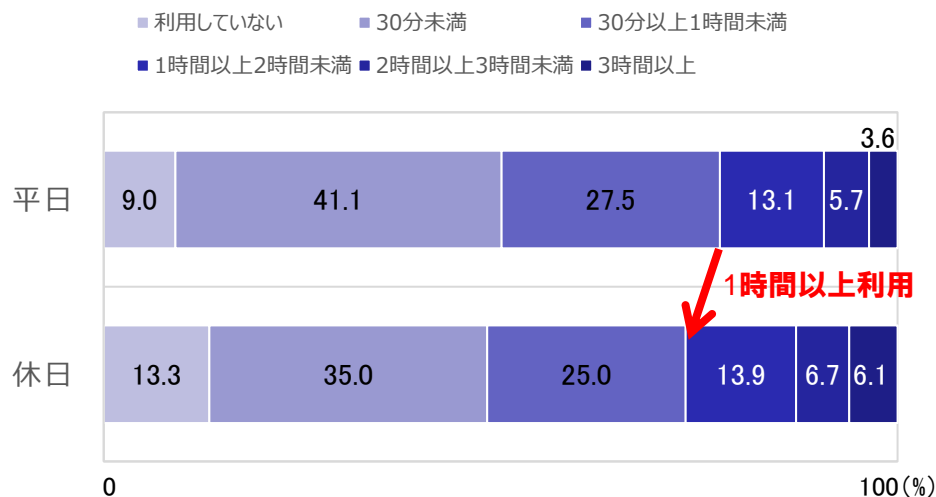
④ 無許諾音楽アプリの利用状況（利用時間、利用回数）

- 利用時間は、休日のほうが利用しない人の割合は大きいですが、長時間利用する人も多い傾向。平均視聴時間は平日が約49分であるのに対し、休日は約55分に増加※1。
- 利用（起動）回数は、平日に比べ休日の方が4回以上起動する割合が大きい。平日の平均起動回数は約2.3回であるのに対し、休日の平均起動回数は約2.6回と微増※2。

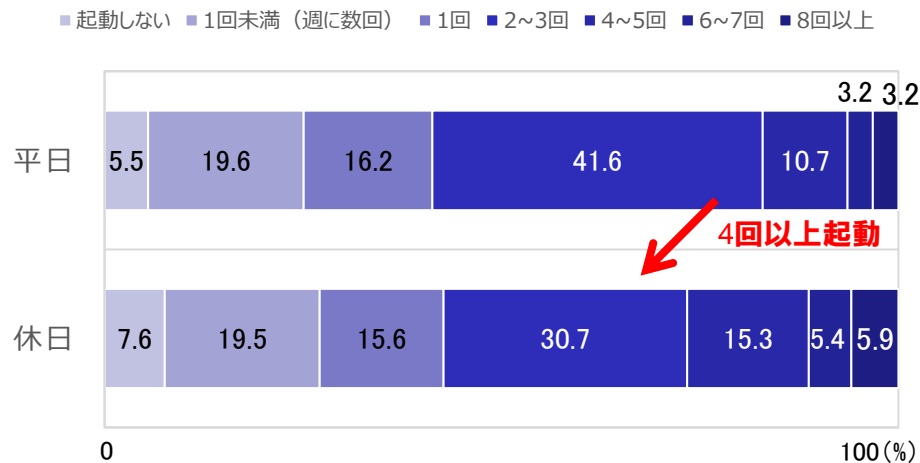
※1) 「利用していない」と回答した層の視聴時間を0分、「30分未満」と回答した層を「15分」と仮定。以降は各選択肢の時間幅の中間値をその選択肢の視聴時間とし、「5時間以上」は300分と仮定して推計。

※2) 「起動しない」と回答した層の起動回数を0回、「1回未満」と回答した層を「0.5回」と仮定。以降は各選択肢の時間幅の中間値をその選択肢の起動回数とし、「10回以上」は10回と仮定して推計。

◆ 1日あたりの楽曲視聴時間（12歳～69歳） (n=1,034)



◆ 1日あたりの起動回数（12歳～69歳） (n=1,034)



注) ここでいう「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

【Q4】あなたが最も利用している【SC5S2の選択内容】では、1日どのくらいの時間楽曲を聴いていますか。
この1年間における、1日の平均的な楽曲視聴時間を平日/休日それぞれについてお選びください。※平日・休日いずれかのみ視聴している場合は、該当する項目のみをお聞きしております。
【平日】【休日】【SA】

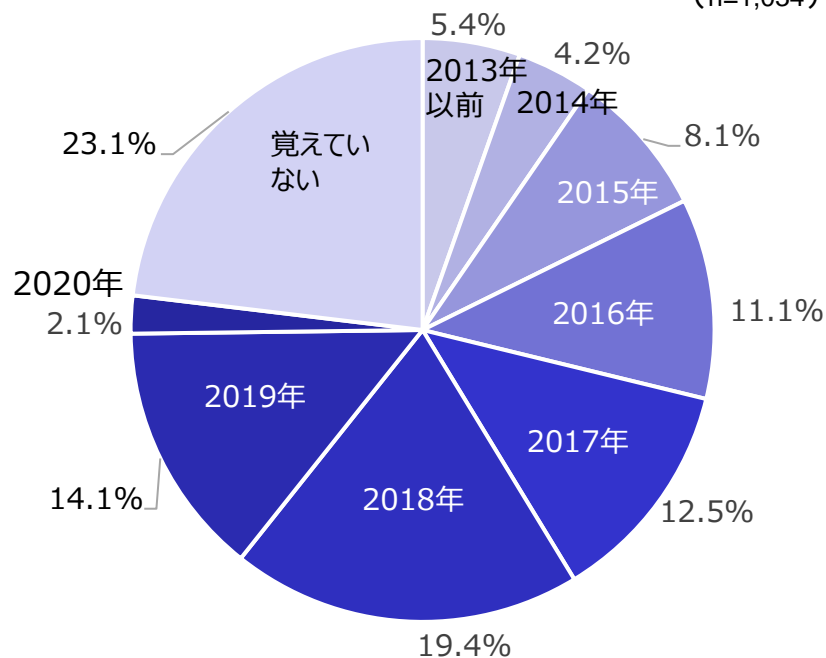
【Q5】あなたは、【SC5S2の選択内容】を、1日どのくらい起動しますか。
この1年間における、1日の平均的な起動回数を平日/休日それぞれについてお選びください。なお、起動とは、アプリを開いたり、サービスにアクセスすることを指します。
【平日】【休日】【SA】

⑤ 無許諾音楽アプリの利用開始時期、知ったきっかけ

- 利用開始時期では、利用開始時期を覚えている人のうち半数超は2017年以降の利用であり、中でも2018年に利用を開始した人が最も多い。
- 知ったきっかけでは、家族、友人、知人からという人が半数以上を占めて最も多く、次いでアプリストアという人が約3割となっている。

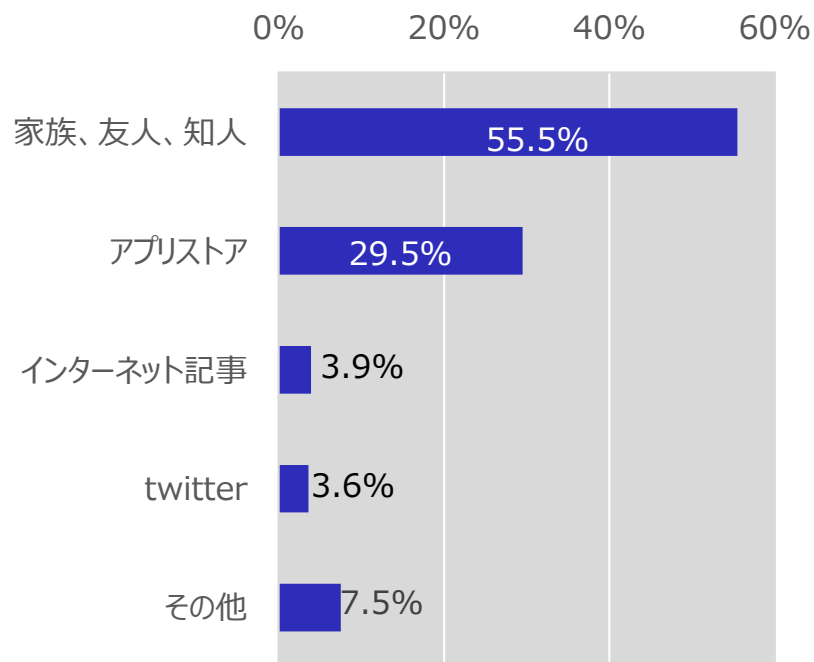
◆無許諾音楽アプリの利用開始時期（12歳～69歳）

(n=1,034)



◆無許諾音楽アプリを知ったきっかけ（12歳～69歳）

(n=1,034)



注) ここでいう「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

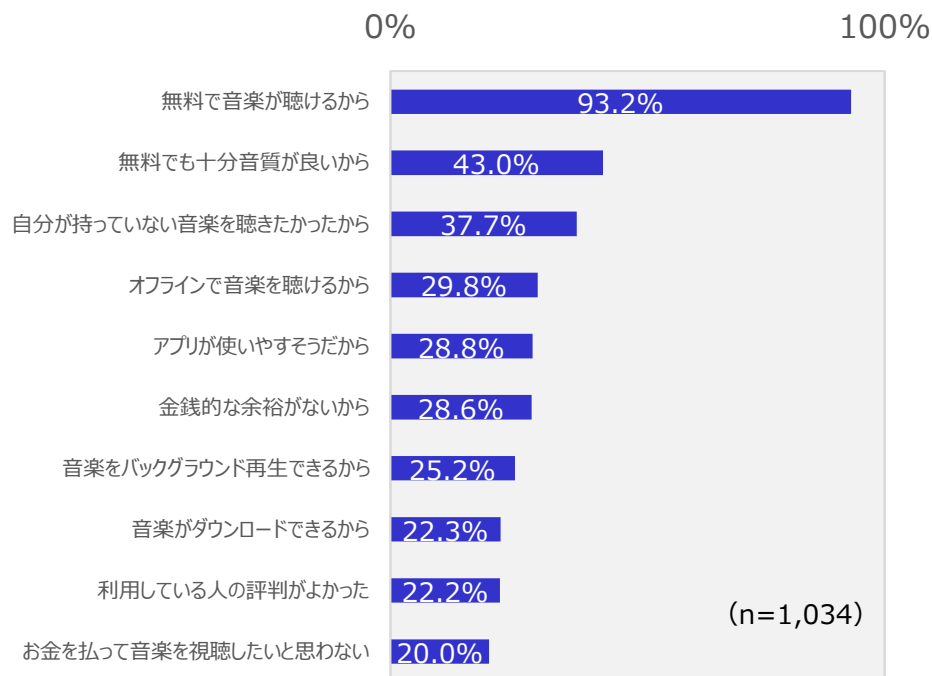
[Q3] あなたが最も利用している【SC5S2の選択内容】について、いつごろから使い始めましたか。あてはまるものをお選びください。【SA】

[Q6] あなたが【SC5S2の選択内容】を知ったきっかけとして、最もあてはまるものを一つだけお選びください。【SA】

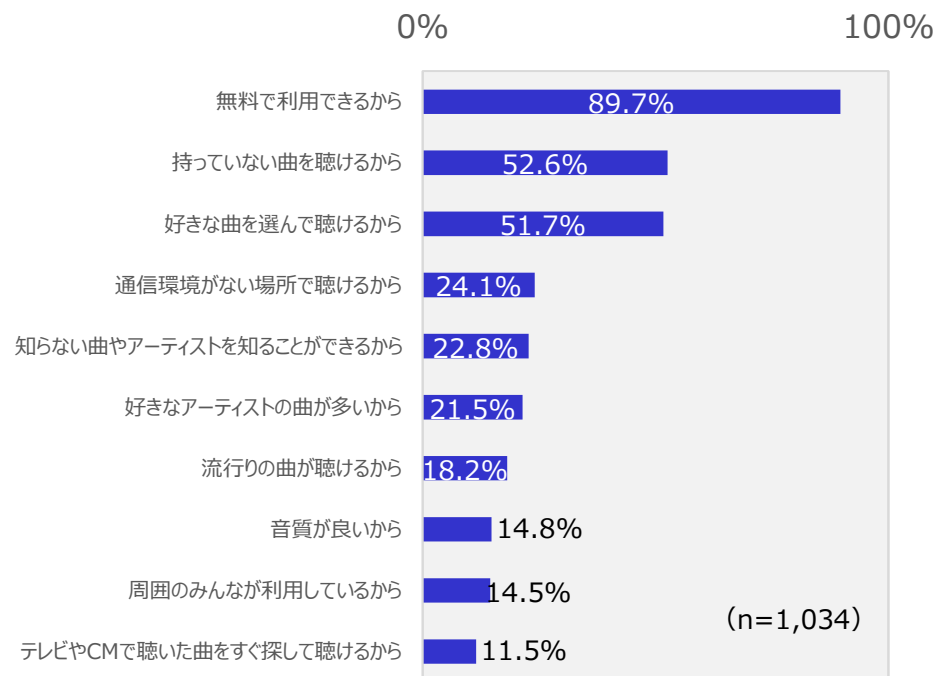
⑥ 無許諾音楽アプリの利用理由

- 利用開始理由では、「無料で音楽を聴ける」が93.2%、利用している理由では「無料で利用できるから」が89.7%と最も多い。
- 利用開始時の理由と比べると、利用している理由では音質の良さをあげる割合は低く、「持っていない曲を聴ける」や「好きな曲を選んで聴ける」などの理由が上位にあがる。

◆無許諾音楽アプリの利用開始理由（12歳～69歳）



◆無許諾音楽アプリを利用している理由（12歳～69歳）



注) ここでいう「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

[Q7] あなたが【SC5S2の選択内容】を利用し始めた理由としてあてはまるものをすべてお選びください。【MA】

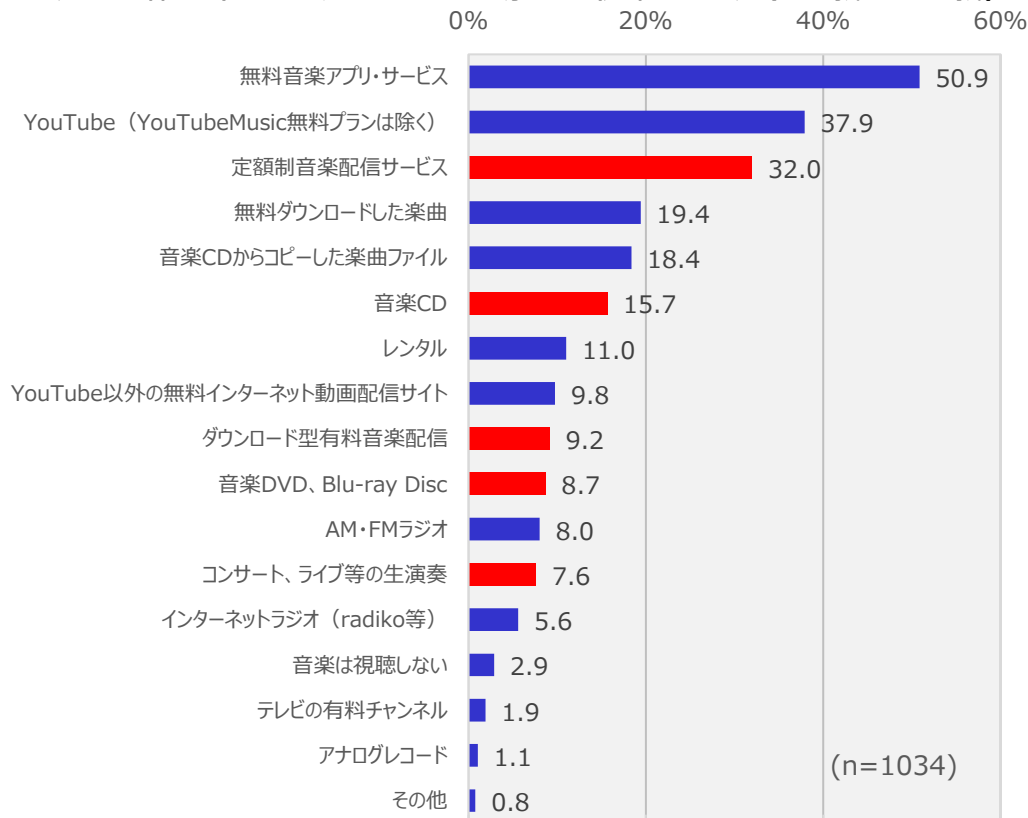
[Q9] あなたが【SC5S2の選択内容】を利用している理由は何ですか。

あてはまるものをすべてお選びください。また、そのうち最も大きいと思う理由を一つだけお選びください。【理由（いくつでも）】【MA】／【最も大きな理由（ひとつだけ）】【SA】

⑦ 無許諾音楽アプリがなくなった場合の視聴方法（代替手段）

- 他の無料音楽アプリ・サービスへの移行が最も多く、半数を超える。
- 定額制音楽配信サービスに移行する割合は10代、20代に多い傾向がある。一方、音楽CDは20代で約1割なのに対し、30代以上で2割超と移行の意志が高い。

◆無許諾音楽アプリがなくなった場合の視聴方法（12歳～69歳）



	年代別比率		
	10代 (n=388)	20代 (n=365)	30代以上 (n=281)
定額制音楽配信サービス	34.8%	35.6%	23.5%
音楽CD	16.0%	10.7%	21.7%
ダウンロード型 有料音楽配信	7.5%	9.3%	11.4%
音楽DVD、Blu-ray Disc	9.5%	7.7%	8.9%
コンサート、ライブ等 生演奏	9.5%	7.1%	5.7%

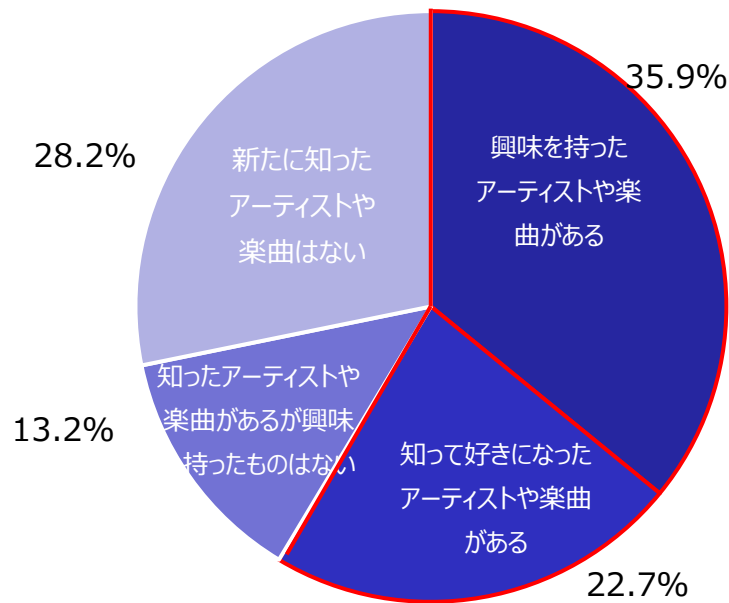
注) ここでいう「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

[Q13] もし「SC5S2の選択内容」がなくなった場合、あなたはどの方法で音楽を視聴しますか。あてはまるものをすべてお選びください。【MA】

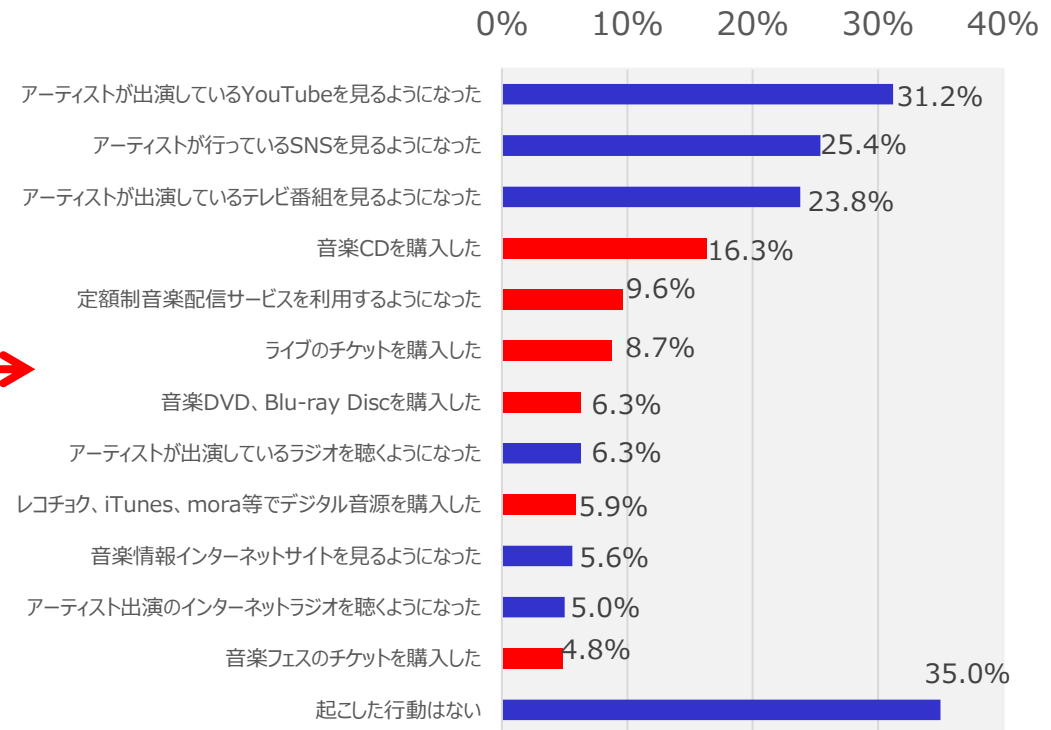
⑧ 無許諾音楽アプリの利用による影響・変化

- 無許諾音楽アプリで新たに知ったアーティストや楽曲がある割合は、全体で7割を超え、そのうち約8割は、興味を持ったり好きになったと回答している。
- 新たに知ったアーティストや楽曲に対しては、行動を起こしていない人が35%と最多。次いで、アーティストの出演するYouTubeやSNS、テレビ番組を見るようになったとの回答が続く。
- 無許諾音楽アプリで新たに知ったアーティストや楽曲について、商品・サービスの購入に至ったものは、割合が高い順に「音楽CD」「定額制音楽配信サービス」「ライブチケット」「音楽DVD、Blu-ray Disc」等。

◆無許諾音楽アプリで知った新たなアーティストや楽曲
(12歳～69歳) (n=1034)



◆無許諾音楽アプリで知った新たなアーティストや楽曲
に起こした行動 (12歳～69歳) (n=606)



注) ここでいう「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

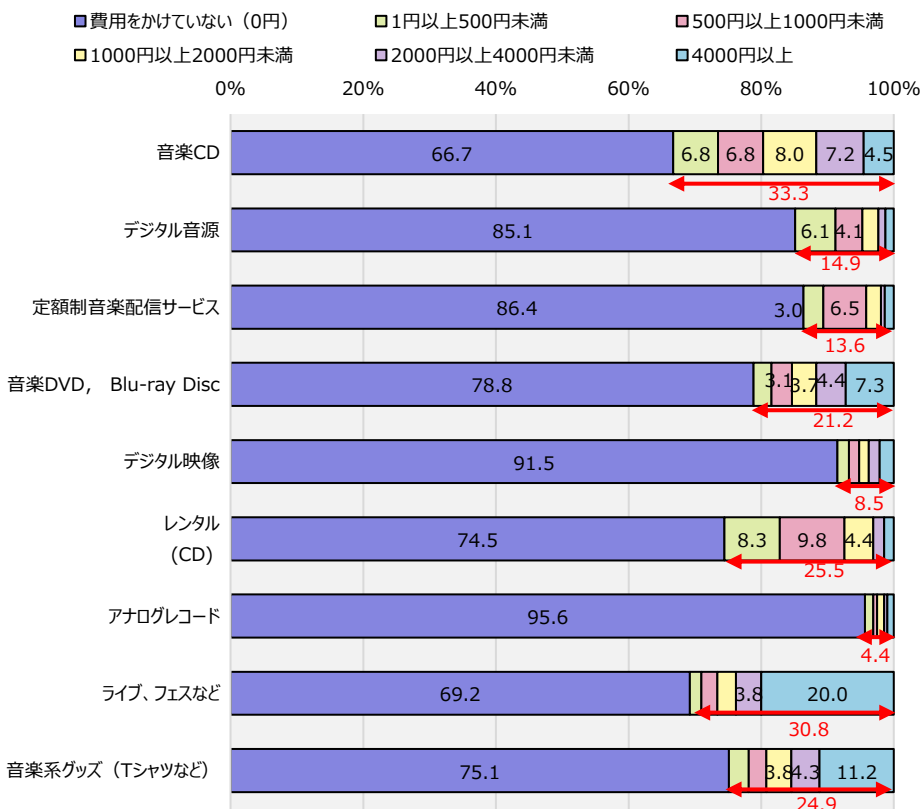
【Q11】あなたは【SC5S2の選択内容】で新たに知って、興味を持ったり好きになったアーティストや楽曲はありましたか。あてはまるものをお選びください。【SA】

【Q12】あなたは【SC5S2の選択内容】で興味を持ったり好きになったアーティストや楽曲に対して、起こした行動はありますか。あてはまるものをすべてお選びください。【MA】

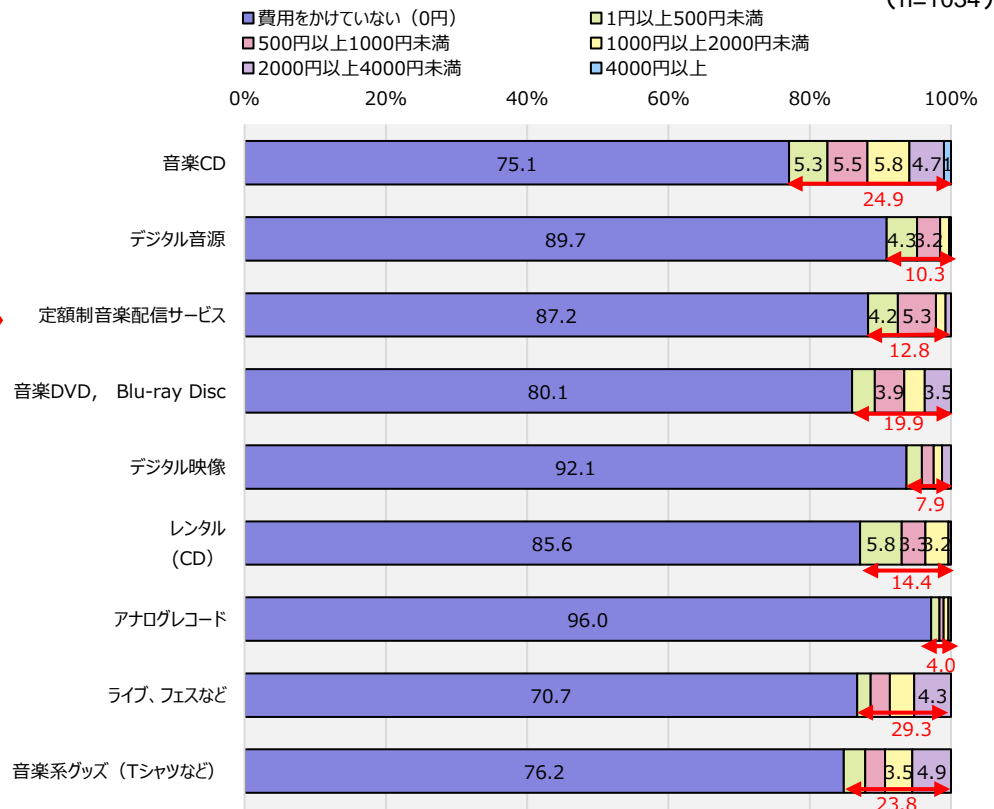
⑨無許諾音楽アプリ利用前後の1か月あたりの音楽利用額

- 無許諾音楽アプリ利用前に比べて、利用後ではすべての商品・サービスで費用を支払う人が減少し、特に、レンタルで11.1pt、音楽CDで8.4pt、デジタル音源で4.5ptと減少率大きい。
- アナログレコードやデジタル映像、定額制音楽配信サービスに費用を支払う人の割合は、無許諾音楽アプリ利用前後で微減にとどまる。

◆無許諾音楽アプリ利用前の1か月あたりの音楽利用額 (n=1034)



◆無許諾音楽アプリ利用開始後の1か月あたりの音楽利用額 (n=1034)



注) ここで「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

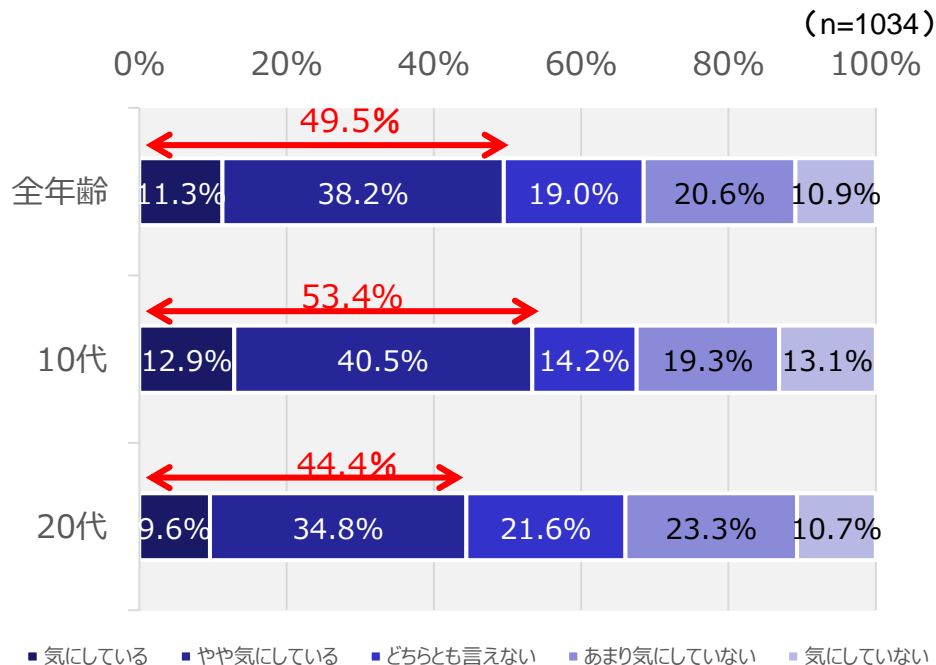
[Q15] あなたは「【SC5S2の選択内容】」を利用する前、1か月あたり音楽に対してどのくらい費用をかけていましたか。利用する前の直近の一年間について、それぞれ1か月あたりの平均的な金額をお選びください。【SA】

[Q16] あなたは「【SC5S2の選択内容】」を利用し始めてから、1か月あたり音楽に対してどのくらい費用をかけていますか。直近の一年間について、それぞれ1か月あたりの平均的な金額をお選びください。【SA】

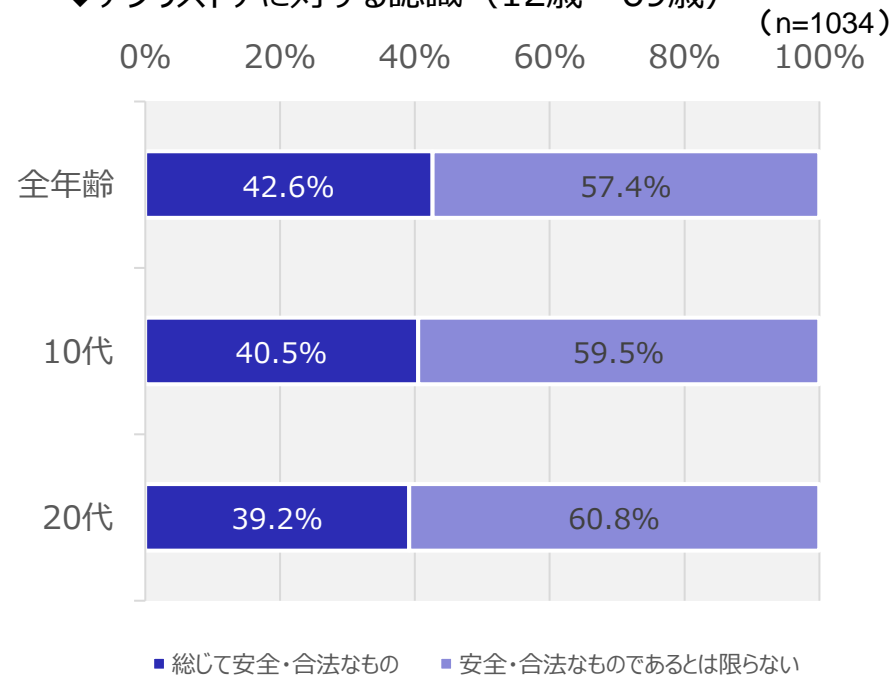
⑩ 無許諾音楽アプリに関する意識（アプリ本体、アプリストア）

- アプリの正規性については、「気にしている」「やや気にしている」人が約半数、「気にしていない」「あまり気にしていない」人が、約3割である。
- アプリストアのアプリを安全・合法であると捉える割合は、全体では42.6%であり、10代、20代も全体傾向とほぼ同様。

◆無許諾音楽アプリの正規性（12歳～69歳）



◆アプリストアに対する認識（12歳～69歳）



注) ここで「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

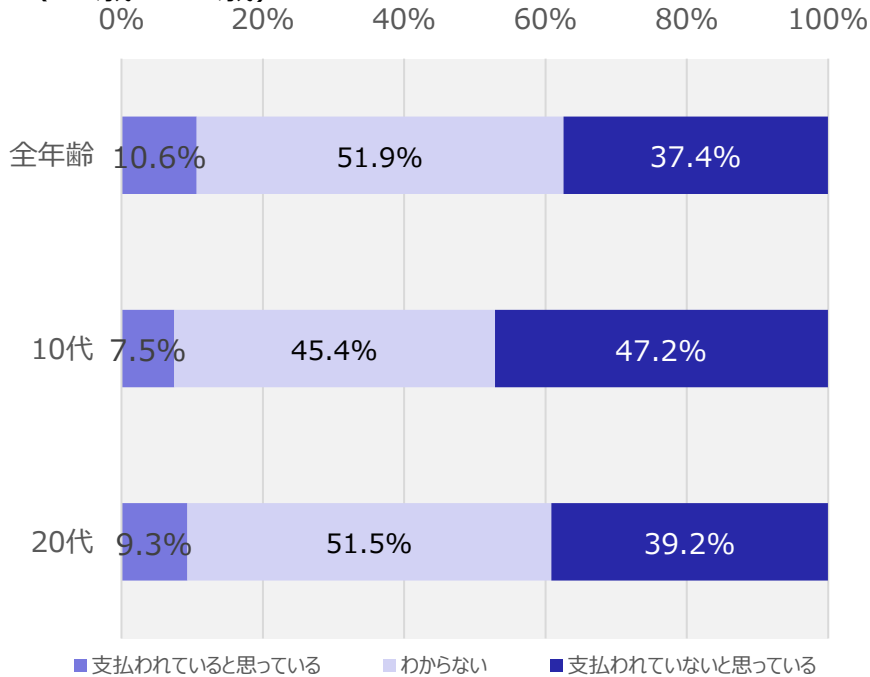
[Q18] あなたは、アプリが正規のサービス提供者によって制作されたものであるかどうかについて普段どの程度気にしますか。以下の中から、あなたにあてはまるものを一つだけお選びください。【SA】

[Q19] あなたは、アプリストア（App store(iTunes store)やGoogle Playなど）にあるアプリに関してどのような認識を持っていますか。以下の中からあなたの考えにあてはまるものを一つだけお選びください。【SA】

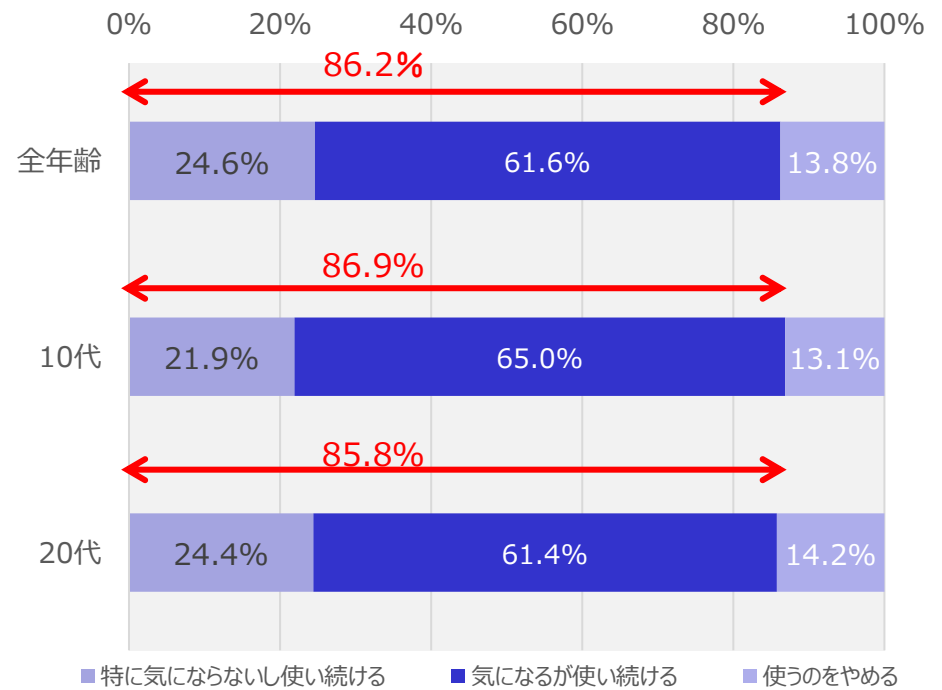
⑪ 無許諾音楽アプリに関する意識（アーティストへの還元）

- 無許諾音楽アプリの収益が「アーティストに還元されている」と考える人は全体の約1割。10代より20代の方がその割合が若干高い傾向。
- 還元されていないとしても「使い続ける」割合は全体の86.2%に及び、全体の6割超が「気になりながらも使い続ける」と回答。

◆ 無許諾音楽アプリにおける「アーティストへの還元有無」
(12歳～69歳) (n=1034)



◆ 「アーティストへの還元がない」場合の利用意向
(12歳～69歳) (n=1034)



注) ここでいう「無許諾音楽アプリ」とは、スクリーニング調査で利用していると回答したMusicFMあるいはMusicBoxいずれかを指す。

[Q20] あなたは、あなたが利用している「【SC5S2の選択内容】」からアーティストにお金が支払われているか考えたことはありますか。あてはまるものをお選びください。【SA】

[Q21] あなたが利用している「【SC5S2の選択内容】」がアーティストたちにお金を支払っていないとしたら、どのように感じますか。【SA】

第2章 無許諾音楽アプリによる影響について

無許諾音楽アプリの利用者の推移と累計再生回数の推計

- 無許諾音楽アプリの利用者の平均視聴時間（調査結果「④無許諾アプリの利用状況」参照）から楽曲（1楽曲4分換算）の総再生回数を推計したところ、年間約115億回に及ぶという結果に至った。
- 無許諾音楽アプリの利用者（246万人）の開始時期から、利用者数の推移を算定し、その推移を基に累計の再生回数を推計した結果、2013年から約7年の累計では、約478億回の再生回数にのぼるとの推計される。

	利用者（人）	再生回数
2013年	180,924	843,496,687
2014年	326,327	1,521,387,887
2015年	599,245	2,793,773,155
2016年	962,611	4,487,840,655
2017年	1,349,772	6,292,841,873
2018年	1,960,617	9,140,691,592
2019年	2,399,109	11,185,009,105
2020年（3月）	2,464,670	11,490,664,771
合計		47,755,705,724

- 2020年3月時点での無許諾音楽アプリ利用者を対象に、アプリ利用開始時期から各年の利用者数を推計している。2020年3月以前に利用を止めた層は含まれていない。
- 利用開始時期を「2013年以前」と回答した層は「2013年1月」、「2014年1月～12月」の間と回答した層は「2014年1月」（以降2019年まで同様）、「2020年以降」と回答した層は「2020年3月」として集計。

【累計再生回数（推計）】約478億回

※各数値は小数点第1位を四捨五入しているため、必ずしも合計値と一致しない

無許諾音楽アプリ利用者の音楽に対する意識及び行動について

●無許諾音楽アプリ利用による影響や変化（調査報告書スライドP8「⑧無許諾アプリの利用による影響・変化」）

無許諾音楽アプリによる音楽支出額の変化（「⑨無許諾音楽アプリ利用前後の1か月あたりの音楽利用額」参照）でも、無許諾音楽アプリの利用後に、音楽の聴取や視聴に「費用をかけていない」と答えているユーザーが明らかに増加していた。

無許諾音楽アプリの利用によって、確かに、アーティストが出演しているYouTubeやテレビ番組、アーティストのSNSなどを見るようになったとの回答が2～3割程度あった。また、音楽CD、音楽DVD・ブルーレイ、ライブチケットの購入や定額制音楽配信サービスの利用など購入に繋がったという意見も見られた。しかし、これらのプロモーション効果は小さく、総合的には無許諾音楽アプリの利用で満足してしまうような効果が大きく上回っており、業界に被害を与えていることが伺える。

アーティストや著作者・制作者に収入が入らない状態での音楽の利用が拡大することは、業界全体の縮小を招きかねない。そしてそれは、提供される音楽そのものが減少していくことを示しており、中長期的にはアーティストなどの権利者だけでなく、消費者にもマイナスの影響を与えることになる。

●無許諾音楽アプリに関する意識（「⑪ 無許諾音楽アプリに関する意識（アーティストへの還元）」参照）では「無許諾音楽アプリがアーティストに還元がない」と理解して使用している利用者は4割程度存在することと、更に「還元が無くても使い続ける」と考える利用者が85%以上存在するという結果は、業界にとって憂慮すべき事態である。アーティストのみならず創作者や制作者など音楽コンテンツに携わる全ての関係者は、その利用者に対する啓発活動の必要性を改めて認識した事態になったといえる。

無許諾音楽アプリによる影響（まとめ）

今回の実態調査は、2020年3月時点の利用実態動向であり、その後のコロナ禍による生活様式や環境の変化がもたらす影響については把握がなされておらず、ネットの利用時間が増えれば、また異なる利用実態が存在すると想定される。

また、利用者の利用動向や利用意識の実態からは「MusicFM」や「MusicBox」などの「無許諾音楽アプリ」の出現により「音楽は無料」という環境に慣れた利用者たち、とりわけ若年層では「無許諾音楽アプリ」を繰り返し利用することにより、音楽の購入や利用に対する支出やアーティストに還元する慣習や意識そのものを認識せず、音楽に触れている可能性があることになる。

これらの健全化が図れないままであれば、この「無許諾音楽アプリ」を利用する利用者は今後も確実に増加することが想定され、それによる被害は確実に肥大化し、より深刻化すると考えられる。

音楽業界にとってこの事態そのものが被害や損失を超えた音楽市場の滅失に繋がることを再認識し、そのような市場の崩壊を防ぐため、海賊版リーチサイト・アプリ規制を盛り込んだ改正著作権法の施行と、適法な情報流通にも配慮した適切な運用による事態の早期の打開が望まれるところである。

同時に、そのようなアプリの拡散を防ぐためアプリストアにおける対策を強化することや、より一層の実態把握に向けたアプリストアと音楽業界の協力関係の構築などにより、配布の事前防止策を講じるなどで音楽を取り巻く環境の健全化が早急に図られることが重要と考える。

また、音楽業界やプラットフォーム事業者など関係者による利用者への周知啓発や、特に若年層の利用者がより合法的に音楽に触れやすいビジネスモデルの構築などが進められ、デジタル環境で音楽業界が継続的に発展していくための環境整備が行われることを期待する。

おわりに

おわりに

- 本調査は、学術的にも手法として認められている手法（アンケート）によって調査を実施したものである。また、本調査結果は、信頼性・妥当性を高めるための調査設計に基づいており、その目的は達成された。一方で、こうしたアンケート調査はアプローチの一つに過ぎず、配信事業者等の協力に基づく各種のデータによる調査は継続して行われるべきである。また、本調査の実データは希望により提供されるものであり、学術的・専門的な研究・検証によって、引き続きより深い提言がなされることを願う。
- また、本調査は、各方面の専門家の参加による委員会形式によって実現したもので、こうした議論の場を設けることは当該分野では貴重な例である。本調査は無許諾音楽アプリの利用実態に限って音楽の消費のあり方を分析したものであり、クリエイター、ユーザーの動向・意向の変化がもたらすコンテンツ・メディアのビジネスモデルの今後については更なる包括的な調査を期待するものであり、これを機に事業者や権利者など多くの関係者が引き続き検討していくよう関係各位の尽力が期待される。

本報告書を通じて、業界や産業全体として今後どういった方向性を見据えていくのか、あるいは広く音楽を楽しむ消費者としてより良い利用環境の構築のために何を求めていくのか、について考えるきっかけとなれば幸いである。

2020年9月

無許諾音楽アプリ実態調査委員会